

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間共有会 発表資料

活動団体の本事業での活動テーマ

『山・海・里・食・農から生まれるサステイナブル・ツーリズム・ビレッジしらやま』

活動団体の活動地域：福井県丹南地域

活動団体名：エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま

中間支援主体名：合同会社ローカルSDクリエーション

中部ブロック中間共有会

■2025年度末の状態目標

- 情報発信体制の構築と強化（HP及びSNS立ち上げなど）
- 交流及び関係人口の増加を目指すコンテンツ企画
- 地域ブランドプロモーションツール作成支援

エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま



井

(第3種郵便物認可)

越前市白山地区の魅力知って

廃校舎活用しカフェ 新聞ちぎり絵や手芸体験



越前市白山地区の魅力を知ってもらおうと、手芸体験や音楽ライブ、地元食材などが楽しめる「ほたるカフェ」が14日、旧白山小学校第一分校（安養寺町）の校舎を利用して開かれた。新聞ちぎり絵やコケ玉作り、県産材のアクセサリー作りなどの手芸体験、ギター演奏などが行われ、訪れた人たちは自然豊かな白山地区で穏やかなひとときを過ごしていた。

地区住民らでつくる「エー」の里じまが主催。現を活用した、カフェでは地コ・クリーンソーリス水。在は廃校となった小学校舎

元食材を使って仕上げたボルガライス（こちらがまポルカ大豆）やオリシナルの揚げパン、地元シシトリアのおにぎりなどが販売され、昭和レトロな雰囲気の旧校舎で飲食を楽しんでいた。

（藤井雄次）

新聞ちぎり絵は中日新聞・日刊福井福井の販売店でつくる福井県中日会が実務に参加した親子らは赤や青、茶、緑など鮮やかな色を探しながら新聞紙を小さくちぎり、カプトムシやサランボ、ソートクリームなどが描かれた下絵に、のりを使って貼らせた色鮮やかな作品に仕上げた。

新聞ちぎり絵を愛する人たち。越前市安養寺町で

■メンマづくり

里山工房さかのくち 体験

タケノコ収穫・皮を剥ぐ・切る・茹でる・塩漬け



水の里しらやま
メンマレシピ考案中

竹取キッチン 視察

富山 茶木 勝氏
(EPO協働コーディネーター)



植物系乳酸菌入り純国産メンマ

■水の里しらやまホームページ作成

- 水の里しらやまホームページ構築
デザイン案の検討～選定へ

白山に縁のある若者約20人へのアンケート

※30歳～45歳

地区内若手農業者・酪農者・子育て世代・白山移住者・白山出身県外在住者 ほか

案別アンケート結果

C

穏やか・大人
×
ほっこり・あたたかい



回答数: 8名

以下のような感想を頂きました。

雰囲気/感情 ノスタルジックで心温まり、懐かしさや家族との思い出を想起させる。住みたいと思うほど魅力的に感じられた。

写真の効果 家族写真や子どものアクティビティ写真が自然に目に入り、体験のイメージが湧きやすい。口コミやキャンプ写真も親近感を生み、共感しやすい。

デザイン面 フォントが見やすく、全体のバランスも良い。アクティビティの写真配置や口コミの表現が分かりやすく、ユーザーフレンドリー。

比較検討 A案は水の里ブランドに合っている、C案はアクティビティが伝わりやすい、他案よりもシンプルで可愛い。

ホームページへのモデル出演



私たちも何かやりたい!!
しらやまのこと!!



【白山さんち】
ハブ施設の実現へ！

子育てしながら

- 観光案内
- ミニカフェの営業 他



■親子田舎暮らし体験inしらやま



【スマウト (SMOUT)】

地域と関わりたい人と地域をつなぐ移住・関係人口マッチングサービス。

地域に興味を持つ人々が、自分のプロフィールや希望を登録することで、自治体や地域事業者からスカウトを受けたり、地域のプロジェクトに参加したりできます。

【こんな方におすすめ】

- ・子どもに自然体験をさせたい
- ・親子でゆっくりした時間を持ちたい
- ・将来、田舎暮らしや移住に興味がある

【体験できること】

- ・農作業体験
- ・焚火体験
- ・川遊び
- ・星空観察

観光以上、移住未満の《暮らすような旅》

農林業体験やリモートワークをしながら、2泊3日以上滞在で、里山の暮らしをまるごと体験！
大人は農林業のお手伝いを通じて作業体験ができお手伝い内容によってはお礼がでることも・・・



夏休みや冬休み春休みなどは、お子様は地元学童クラブや保育園などにのびのびと通い、親はその間リモートワークなどで普段通りのお仕事ができます。

滞在中も地域の人々との交流の場を持つことができ地元で溶け込むような体験ができるのも魅力です。



白山さんちの施設整備 1棟貸し可能に！

■秋祭り子ども神輿

令和7年10月12日

稲からごはん 藁から縄まで 親子で学ぶ秋祭り開催！

伝統とあそびを結ぶ ちいさな秋祭り

子どもみこし

×
新米でカンパイ

参加費
無料

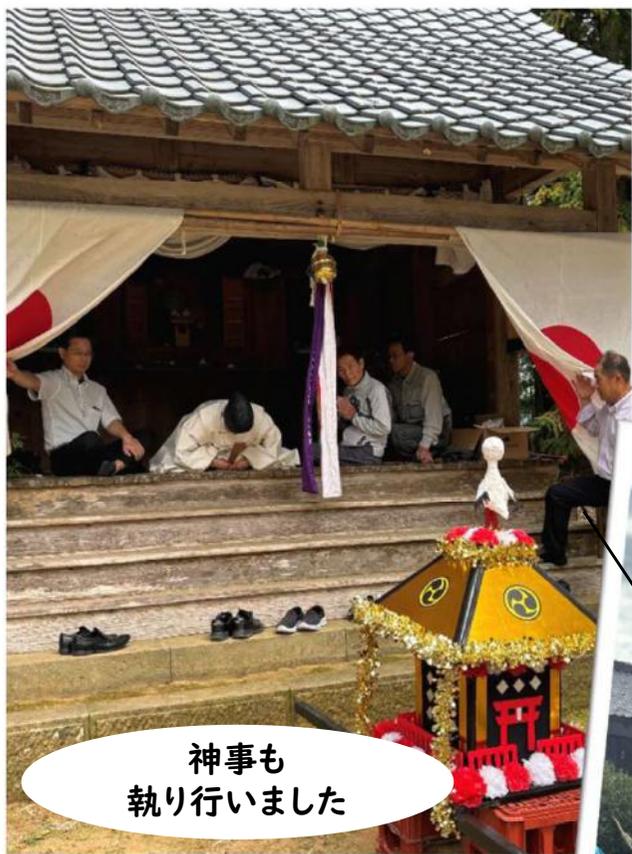
2025年
10月12日 SUN 10時～
場所：越前市牧町内

ワラから縄跳びづくり
ポン菓子もあるよ！

詳しくは
裏面へGO!



子ども神輿練り歩き



神事も
執り行いました



わっしょい

わっしょい

わっしょい



わっしょい



もみがらの中の宝さがし



わら縄でなわとび



米ふかし



わら縄あみ

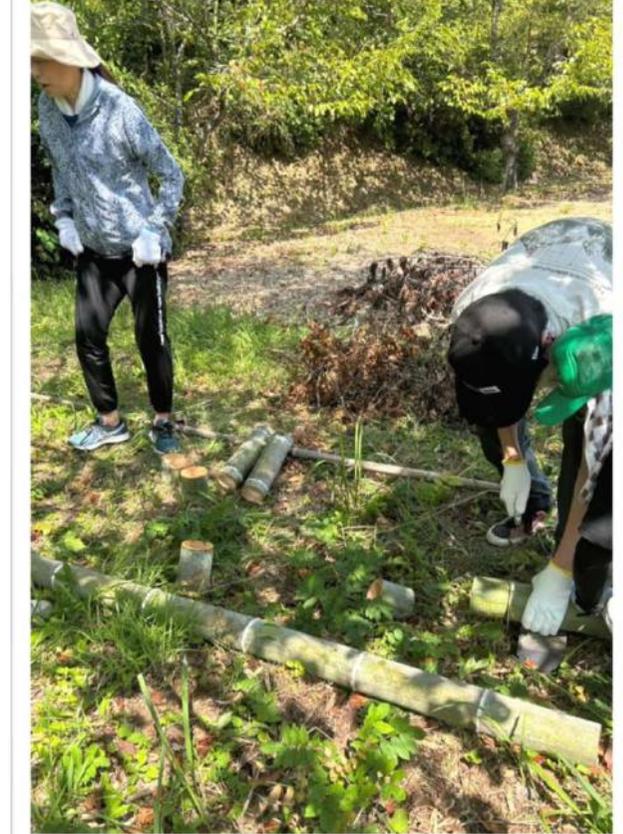


新米おにぎり

■えちぜん里山・里海まるごと体験ツアー

「予約ネット：じゃらんnet 遊び・体験予約サービス」

8月23日	スイカ蔓まくり	1人
8月24日	スイカ蔓まくり	1人
8月30日	アウトドアクッキング・クラフト体験	4人
10月13日	アウトドアクッキング・クラフト体験	3人



活動・支援スケジュール

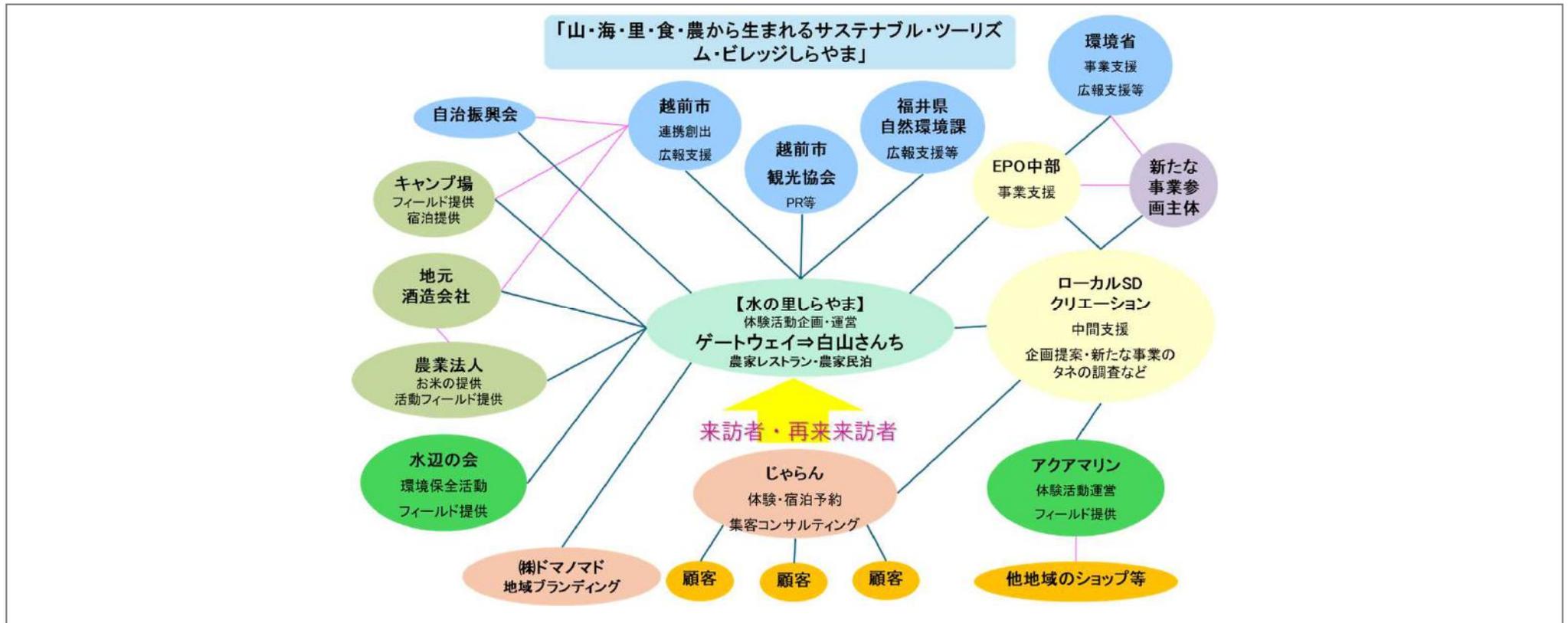
■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】		◆キックオフ	地域ブランディング会議	◆キックオフ					◆中間共有会		◆SHミーティング	
			タグライン決定				ホームページ立ち上げ準備				HP運用開始	
									農家民泊運営体制の構築			
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】		◆キックオフ	◆定例会	◆定例会				◆先進地視察			◆定例会	
		農家民泊受け入れ準備	◆プログラム企画会議					◆定例会			◆定例会	
			農家民泊白山さんち運営									
			体験プログラムの受け入れ運営									
中間支援主体の支援・取組計画	中間支援内容の検討								◆中間共有会		◆SHミーティング	
							関係主体との連携構築支援				中間支援ギャザリング◆	
				体験コンテンツ及び農家民泊の予約管理及び企画・運営支援								
		SNSの立ち上げ										
					情報発信支援及び活動の効果検証（取材・調査）							

備考（補足説明など必要な場合は記載）

“地域プラットフォーム”のイメージ

”地域プラットフォーム”のイメージ



地域プラットフォームの特徴

- 活動団体にはこれまでの活動で作られた様々なつながりが存在
- 既存のつながりと共生圏事業で出来上がったつながりにより多様な活動を展開
- 活動団体は地元農家や自治組織などとの連携や協働が得意

地域プラットフォーム構築のために取り組んだこと

取組① 『水の里しらやまホームページ作成』

【活動内容】

- ・ 水の里しらやまホームページ構築
デザイン案の検討～選定へ

白山に縁のある若者約20人へのアンケート
※30歳～45歳

地区内若手農業者・酪農者・子育て世代・白山移住者・白山出身県外在住者 ほか

【工夫した点、がんばったこと】

- ・ ターゲット（ペルソナ）とする30～40代の人々に対し地域内外で連携を構築

【成果、やってよかったこと】

- ・ 地域の若者の意見を聞きながら進めることができた。
- ・ 地元住民モデル参加者が、白山地区の地域課題・方向性を確認でき、今後のプラットフォーム事業への参画申し出があった。



【中間支援主体による支援】

見立て：

- ・ 集客を行うための課題の認識
- ・ 立ち上げ後のHPの運用とPR

打ち手：

- ・ ホームページ立ち上げのミーティングに参加し、情報発信に関する課題の抽出
- ・ 活動団体が苦手とする部分のSNSアカウントの立ち上げと情報発信支援

ローカルSDGs事業創出に向けて取り組んだこと

ローカルSDGs事業①『 えちぜん里山・里海まるごと体験ツアー 』

【段階】

計画・構想 / **試行・試験** / 実践

【事業概要、進捗状況】

事業概要：地域の竹でメンマづくり体験

参加人数（運営側以外）：5人

8月24日：塩漬けしたタケノコを、塩上げし陰干し

9月19日：干したメンマを小分けし、パック詰め

10月27日：竹取キッチン視察（富山県上市町）

【活用している自然資本・地域資源】

・地域の里山（荒れた竹林）

【事業により生じたor 生じそうな成果、環境・経済・社会の循環】

・里山保全（竹林整備）

・地域の特産品開発

・新たな体験コンテンツの企画



【中間支援主体による支援】

見立て：

- ・ 事業に対しての情報が少ないことを認識できていない。
- ・ 裏作で十分な量や結果が得らず今後の事業の進展が見えないと感じている。

打ち手：

- ・ 収益事業として確立している業者を紹介し、視察に行くことを提案することで団体とのつながりを行った。
- ※ 株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ
代表 茶木 勝氏

前期の振り返り（活動団体に対して発揮した中間支援機能）

【プロセス全体を俯瞰して、中間支援のポイントだったと思うこと】

- ・活動団体の苦手な部分を分析し必要な部分を助ける（できない部分は担うくらいで…）

じゃらんなどの予約サイトの申し込みや予約管理、SNSの立ち上げや運営支援など

- ・個別に話を聞く（定例会議よりも、普段のぼやきを聞きに行く）

課題や事業に対する活動メンバーごとの認識の差や会議では出てこない意見を聞きに行く

- ・アイデアを提案しやってみる（良い事業を残すには場数が必要）

課題に対しての色々なアイデアをやってみる中で次の手を考えていく

【活動団体の変化】

- ・情報発信について新たな課題を認識できるようになった
- ・事業の優先順位や目的について意識し課題に対する具体的な動きがあった。
- ・今後の事業展開のヒントになる新たな主体とのつながりができた。

【中間支援主体としての変化】

- ・キーパーソンだけでなく複数のメンバーに面談し繰り返しアドバイスをを行った。
- ・課題に対しての動きを活動団体が主体的に行ったことで活動団体の新たなつながりを認識した。
- ・新たなつながりを意識し地域内だけでなく地域外のつながりを作ることができた。

【後期どのような中間支援をできるといいか、していきたいか】

- ・事業計画と進捗を把握し、必要に応じて体験メニューなどの検証を行い、活動団体に提言するための情報収集を行っていきたい。
- ・活動団体がこれまで作り上げてきた多様な主体とのつながりを活用した多様な体験コンテンツや農家民泊等のツーリズム事業の展開を多方面にPRしていきたい。
- ・これまでの情報発信の現状と課題を整理し、情報発信戦略を作ることで活動団体が顧客の獲得に向けて積極的に情報発信ができる体制づくりを支援したい。

ご清聴ありがとうございました。